

年号：1860年
月日：5月29日
災害名：大雨の概要

長崎県長崎市位置図



出典：国土地理院

【150 年毎月続く災害伝承「念仏講まんじゅう」：長崎市太田尾町山川河内地区^{さんぜんこうち}】

- ・長崎市太田尾町山川河内地区では、江戸時代末期の 1860 年(万延元年)4 月 9 日(新暦では 5 月 29 日)の朝、大雨による土砂災害が発生し、家屋 7 軒が全半壊、33 人もの犠牲者を出した過去がある。
- ・以来、この地区では、この災害で亡くなられた方々等の供養と災害を忘れないため、遺体の捜索を打ち切った翌日の 14 日を月命日として、毎月 14 日にまんじゅうを持ち回りで全戸に配る地域独特の行事「念仏講」が行われるようになり、150 年以上の間続けられている。
- ・1982 年(昭和 57 年)7 月 23 日の長崎豪雨災害時、隣接する長崎市芒塚(すすきづか)地区では土石流等により 17 人もの犠牲者が生じた。本地区においても河川氾濫や土石流が発生し家屋等に被害を生じたものの、早めに安全な高台等に自主避難し、35 世帯 173 人のうち一人の負傷者も出さなかった。
- ・災害の供養と言って念仏講まんじゅうを配ることにより、過去の災害体験を世代を超えて継承し、地域の土砂災害のリスクを共有してきた。万延元年の土砂災害の伝承が自主避難に活用されたといえる。山川河内自治会は総務省主催の第 17 回防災まちづくり大賞を 2013 年 1 月 23 日に受賞している。



▲長崎市太田尾町山川河内地区の位置



▲流失を免れた水神・山神・土神 (水害後に作り直した石碑)

- ・山川河内地区を流れる逃底川の最下流部の畑には、万延元年の災害の時に流された牛馬を祭る馬頭観音が祭られている。
- ・馬頭観音の前では、お盆の精霊流しのときに、鉦(かね)はり(鉦を打ち鳴らしながら、念仏を唱える仏教の行事)をすることから被災した人馬とも祭られているとも考えられる。



▲馬頭観音が祭られているお堂は石積みの上にコンクリートの屋根がつくられている



▲馬頭観音は三面彫りの石造